

ブランコのうさぎ



2023.03

44

はる号

[開催報告]

令和4年度 第3回 事例検討会
「丹後圏域リハビリテーション専門職情報交換会」

令和4年度 丹後圏域地域リハビリテーション実践交流会
お気軽サミット

令和4年度 第4回 事例検討会
「相談支援専門員とリハビリテーション専門職の連携」



【今回の表紙】

丹後中央病院訪問リハビリテーション事業所では目標と期限を決めて支援をされています。
詳細については3ページ以降を参照ください。

LINE 公式アカウント

友だち募集中

@513gckqy

主催研修会情報、
活動紹介等の最新情報
を発信します

丹後圏域地域リハ支援センター公式LINE



令和4年度 第3回 事例検討会 「丹後圏域リハビリテーション専門職情報交換会」

日時：令和5年1月30日（月）16：30～18：00

会場：各所属先（Web開催） 参加者：15名

アンケート結果報告

「丹後圏域におけるリハビリテーション専門職の連携に関する意識調査」

【アンケート結果より】

- ・所属内・職場内でのリハビリ専門職の連携できているが、外部との連携は若手・中堅世代は少ない
- ・コロナ禍で外部の研修会への参加の機会が減っているため、外部と交流する機会が減少している
- ・外部でのリハビリや環境について興味がある意見が多数
- ・専門職間での関係づくりの機会があれば参加したいとの意見あり（しかし、業務時間内の希望が多数）



志賀 大記 氏
丹後中央病院 理学療法士

情報交換会

各事業所・施設のリハビリ紹介やその特色について、外部との情報提供・共有する内容・方法についてどんな点に注意しているか、どんなことを希望しているかなどの意見を交換する機会となりました。



参加者の感想

- ・今後は、情報提供の意図をしっかりと汲み取って、情報交換にあたりたいと思います。
- ・他施設の方と顔を合わせ意見交換できよかった。
- ・他の方の意見などいろいろと聞けてよかったです。
- ・情報提供の内容等、他施設がどのように感じているかを聞いて参考になりました。
- ・今回の事例検討会を通して、情報提供あるいは情報交換の目的を再確認し、業務を遂行していこうと思えた。
- ・ZOOMでの開催にはなってしまいましたが顔が見える形での検討会はとても新鮮でした。またこのような機会があれば是非とも参加させていただきたいです。ありがとうございました。

令和4年度 丹後圏域リハビリテーション実践交流会 お気軽サミット

日時：令和5年2月22日（水）15：00～17：00

会場：各所属先（Web開催） 参加者：55名

5名の方に実践報告をしていただき、参加者と質疑応答を通して、実践交流をさせていただきました。

テーマ「補装具における心の障壁をなくす

—脳卒中を患った方の生活期における歩き方から—

脳卒中の方の歩行動作を通して、装具を利用することについて、紹介いただきました。

自分が脳梗塞になり、
半身が動かなくなったら、
装具を使用しますか？



参加者の
意見

つける
60%

つけない
40%

中西 康二 氏
京丹後市立弥栄病院
理学療法士

報告のポイント

- ・ **健康寿命**：健康上の問題で日常生活が制限されることなく生活できる期間
- ・ 歩行速度が低下すると転倒の危険がある ⇒ **歩行速度は健康寿命に影響！？**
- ・ 見た目の悪さや不便性から装具を使わないことを選ばず、必要に応じた装具の使用を検討してみましょう
- ・ **リハビリの目標**：生活の質を上げて、その人らしく生活できるようにサポートする

参加者の感想

- ・ 装具は有用なものだと思いますので、必要な人が必要なときに使えるようになり、キチンと使い方も理解されると良いと思いました。
- ・ 補装具はやはり抵抗感があるので、関わるスタッフがしっかりとメリット、デメリットを知った上で提案すべきだと感じました。
- ・ 医療機関によって装具作成の手順で対応が違うというのに驚いたことがあります。医療機関側も再度、装具の必要性を認識していただけると嬉しいです。

テーマ「当訪問リハビリテーション事業での可能性と課題 -目標と期限を決めて-」



佐藤 一喜 氏
丹後中央病院 理学療法士

訪問リハビリを実施していく中で、本人・家族の希望の変化への対応、地域でのその人らしさ、生活の可能性について考えてきました

訪問リハビリがどんなことをするのか、どのような方に必要とされるか、どのような経過で利用できるのか、症例を通してご紹介いただきました。

利用者の目標と期限を決めて

なぜ目標設定が必要？

目標を掲示することで、関係者の中で**目標が統一**され、**各サービスの役割が明確化**されると共に、提供される**内容が具体的**になりやすい

なぜ期限設定が必要？

期間を設定することで、**定期的に評価**を行い、お互いに現状を把握することで、訪問リハビリの**修了時期が明確**になる

退院後の環境変化への早期適応を目指したリハ

生活動線上の動作の確認・指導・練習

訪問リハビリ

住宅改修・福祉用具の提案やフォローアップ

生活リズムを整え、役割をもった自立支援の促し

※順心リハビリテーション病院 訪問リハビリテーションHPより

参加者の感想

- ・ 目標を設けることは、その人のやる気を出させるためにはとても重要だと思います。
- ・ 訪問事業の中での課題や地域連携の大切さについて学ぶことができました。
- ・ 訪問リハビリの目的が明確化されていて、わかりやすかったです。
- ・ 専門職の立場から、必要なことを情報共有して、多職種が一丸となって対象者に関われるよう、横のつながりを今後も大切にしていきたいと感じました。
- ・ 在宅状況も含めその方に関わる関係機関の統一が大切だと思いました。
- ・ 期限と具体的な目標設定の重要性を改めて感じました。
- ・ 過去と現在と未来を考えること（他職種が連携する）が大切だと思いました。過去に何をしてきたからこそ、現在があり、未来にも繋がっていくと思います。

テーマ「“ごちゃませ”の環境を 行動的QOLの拡大に役立てる」

マ・ルートが持つ特徴的な環境  “ごちゃませ”

- ・一つの建物の中で、児童・高齢・障がい福祉サービスを実施している
- ・それぞれのサービスを利用する人たちが日常的に交流することができる
- ・分野を越えて、専門職同士が連携することができる

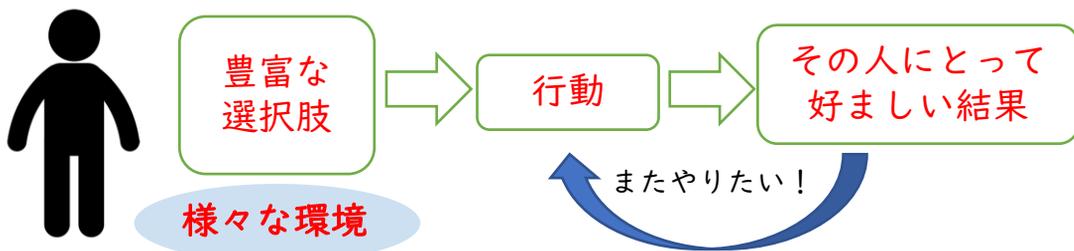


稲穂 涼平 氏

マ・ルート ワンダー・ハーバー
心理担当職員

行動的QOL（生活の質）とは？

行動的な観点からQOLを拡大するという作業は、「正の強化を受ける行動機会の選択肢を増大する」という形で表現される（望月,2001）



報告のポイント

- ・児童・高齢・障がい部門が日常的に交流できる“ごちゃませ”の環境は、**様々な選択肢**を用意できる
- ・豊富な選択肢や、その人にとって好ましい結果が得られることが、**生活の質の向上につながる**のでは…

参加者の感想

- ・ごちゃませのメリットを最大限に活かした取り組みでうらやましいと思いました。発表お疲れ様でした。
- ・それぞれの事業所で特色があると思います。その特色を前面に生かした介入方法で対象者の生活の質や動作活動能力に介入され、参考になりました。
- ・よい環境で、利用者さんも楽しそうですね。行動的QOL向上のところは、多くの施設に取り入れて欲しいと思いました。そう簡単にはいかないと思いますが……。又在宅での生活の中でも参考にしたいです。
- ・対象者の課題を分析し、丁寧に対応を施設全体で取り組めるなんて素敵です。
- ・色んな選択肢が提示できる環境にあることがとても魅力的でした。

テーマ「地域の食堂からつなぐ食支援を目指して」

ミキサー食や刻み食、経口栄養剤
などの食事ではなく、
食事を楽しめるメニューを提案

見た目そのまま、舌や歯茎で潰
せる**やわらかさのメニューを提供**



笠井 幸子 氏

Seat Table 言語聴覚士



「みんなで囲む笑顔の食卓」
かさい食堂でやわらかメニューを監修
言語聴覚士の立場から、誰もが最期まで
笑顔で食卓を囲む、だんらんを提案

デリソフトという調理器での「やわらかメニュー」のご紹介を通して、
暮らしの中で食事を楽しむことの重要性を再認識できました

参加者の感想

- ・食はとても重要だと感じています。最後まで食べたい欲求は誰しもあると思いますので、相談させていただきたいと思いました。
- ・外食に行きたいという患者様が多いので、食形態を工夫していただける場所があることはとてもいいと思いました。
- ・高齢者の中には嚥下を含む食事についての知識はとても興味を持たれている方が多いように感じます。ぜひ高齢者施設での公演も開催していただけると嬉しく思います。
- ・食事はみなさんにとってとても大切なものです。多くの方が生活に関わるものなので、今後も皆さんと検討できる機会があるといいように感じました。
- ・食べる事は人にとって生きる事なので、考えさせられました。
- ・食べるって生活を豊かにしますね。
- ・食に関して支援が必要ないろんな方がおられると思う。惣菜が必要な方、軟食が必要な方など。その人その人にあった食の支援のあり方が地域には必要だと感じた。
- ・嚥下に問題がある方が日常的に利用できる場所が増えるきっかけになるよう、もっと嚥下食について知れる機会があればと思いました。

テーマ「町内初の看護小規模多機能施設開設に向けて」



松本 健史 氏
合同会社松本リハビリ研究所
理学療法士 ユーチューバー

生活リハビリの視点を用いて、在宅と施設を行き来でき、最期まで家族と一緒に過ごすことができ、看取りまで専門的にサポートできる施設が必要

実際に住まれていた住宅を
施設に改修

しずちゃんハウスで目指す「生活リハビリ」



「しずちゃんハウス」

看護小規模多機能型居宅

泊まり・通い・訪問もできる在宅生活を支えるサポート体制のある小規模施設

通い18人、宿泊9人まで可能

2023年7月オープン予定

参加者の感想

- ・完成したら一度見学させて欲しいです。
- ・すごく素敵な施設だなあと感じながら、お話を聞いていました。
- ・実際に住まれていた家を施設にすることで、地域に密着したよりその方らしい生活を意識した関わりが持てそうだと思います。
- ・丹後の地にも選択肢が増えること、そして、選択肢の中を選びたい選択肢が複数あるようになれば素敵だなと思いました。

令和4年度 第4回 事例検討会 「相談支援専門員とリハビリテーション専門職の連携」

日時：令和5年2月3日（金）9：30～11：30
会場：各所属先（Web開催） 参加者：26名

丹後圏域障害者自立支援協議会相談支援部会との共催で実施しました。

丹後圏域障害者自立支援協議会 第4回相談支援部会 2023年2月3日
丹後圏域地域リハビリテーション支援センター
第4回事例検討会

地域リハビリテーション 支援センターの紹介

坂根 勇輝 Yuki Sakane
丹後圏域地域リハビリテーション支援センター
コーディネーター

リハ専門職ができること

みつめる
人がしたいことを見つける

できるように
したいと思っていることを
できるように支援

いろんな選択肢で
環境を変える、
練習する、
人の回復を促す

丹後圏域の地域リハビリテーションにおける重点項目

障害者福祉分野への
参画

小児リハに対応できる
人材養成

Request
皆様の選択肢に
リハビリテーションを
お手伝いさせていただきます。

丹後圏域地域リハビリテーション支援センターの紹介後に参加者でディスカッションを行いました。

丹後圏域の障害者福祉分野における地域リハビリテーションの課題

- ・ 進行性疾患や加齢による思わぬ変化に十分対応しきれていない
- ・ 小児期から成人期を経て高齢期という経過の中での主治医を変更すべきかどうか
- ・ 発達障害のお子さんへのリハビリテーション専門職による支援の充実

etc…

編集後記

お気軽サミットを今年もWEBで開催しました。丹後にこれほど多彩な実践をしている方がおられると驚くとともに、この実践報告をぜひ丹後の皆さんに知ってほしいと思いました。来年度こそは対面（ハイブリッド）でお気軽サミットを開催したいと考えております。ぜひ、みなさんの日々の実践を報告していただくとともに、対面での交流の相乗効果によって、丹後の地域リハビリテーションが活性化されることを期待しています。（Y.S）

編集/発行：丹後圏域地域リハビリテーション支援センター（公益財団法人 丹後中央病院）

連絡先：TEL0772-62-8301 FAX0772-62-8302 e-mail tango-rehabili-shien@tangohp.com

「丹後地域リハ」で検索！

